

世界56ヶ国で販売されているグローバルブランド

※2023年12月時点

BLIZZAK

30年を超える歴史。
進化を続けるブリザック



MZ-02
連鎖
発泡ゴム



1988

PM-10
発泡ゴム



発泡ゴムを採用した
初めてのスタッドレス
ブリザックPM-10誕生

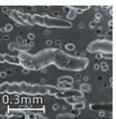
1997

MZ-03
メガ
発泡ゴム



2000

REVO 1
レボ
発泡ゴム



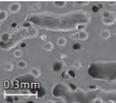
2003

REVO 2
レボ
発泡ゴムZ



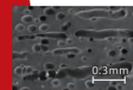
2006

REVO GZ
レボ
発泡ゴムGZ



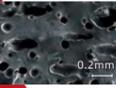
2009

VRX
アクティブ
発泡ゴム



2013

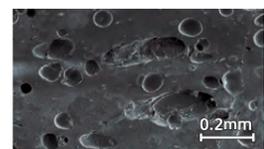
VRX2
アクティブ
発泡ゴム2



2017

BLIZZAK
VRX3
ブリザック ヴィアールエックススリー

水路の断面形状を
楕円形に変更



フレキシブル発泡ゴム



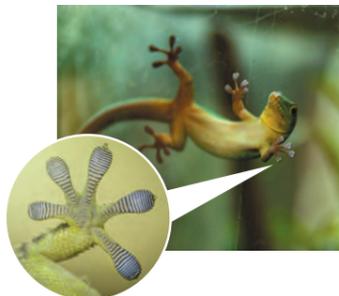
*溝深さがトレッド表面から20%位置の切断面電子顕微鏡写真
*写真は一例であり、実際の形状や密度は異なる場合がございます。

ブリザック開発のヒント!

ひっかく性能のヒミツ ヤモリ編



ブリヂストンのスタッドレス開発担当者は開発当時、「ヤモリが垂直のガラスでも手足をすべらすことなく登っていけるのはあの手のひらにヒントがあるに違いない!!」とヤモリの手のひらに着目。研究してみるとヤモリの手のひらは柔らかく、かつ細かく分割されたパッドがあり、その凹凸でガラス面にしっかりと密着していることを突き止めました。この仕組みをタイヤに応用し、タイヤのブロック面にサイブと呼ばれる細かな切れ込みを入れ、冰雪上での推進力を生みだしています。

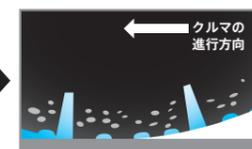


イメージ図

くっつく性能のヒミツ シロクマ編



ブリザックは発泡ゴムの気泡を核に水膜除去の機能を進化させています。この発泡ゴムのヒントになったのは、実はシロクマだったのです。シロクマはあんなに大きな体ですが、つるつるの氷の上でも雪の上でも器用に歩いていきます。着目したシロクマの手を研究すると、シロクマの手はざらついた表面になっていて、これと同じようにタイヤの表面に凹凸を構成できれば氷上での性能を向上できるのでは? という発想が、発泡ゴム開発の原点でした。すべりの原因である氷上の水膜をシロクマの手のひら同様に取り込んでタイヤを氷路面に密着させて「すべり」を抑制しています。



イメージ図

